

建設技能者 職業能力基準(鉄筋)(案)

職業レベル		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	
名称		見習い技能者	中堅技能者	職長・熟練技能者	登録基幹技能者	
経験年数(目安)		3年まで	4~10年	5~15年	10~15年以上	
賃金指標(目安)						
鉄筋技能者対象イメージ		見習い工として修業中の鉄筋技能者	見習い工を修了し、チームの一員として現場での経験を積んだ鉄筋技能者 班長として作業指示ができる	現場管理や工法、技術等について元請管理者と協議し、作業手順を組立て、作業員への指示・調整等を行う	高度な技術力を有し、現場管理や工法、技術等について元請管理者と協議ができる。また他職種との調整などQCDSMEの総合的な管理ができる	
区分の目安(職務概要)		鉄筋材料の名称と基礎的な知識を覚え、道具・電動工具等の安全な使い方を知り、作業の補佐ができる	中堅技能者として、工程や工事の流れに沿って、鉄筋加工や組立てを正確にできる	加工帳を作成し、必要な資材の発注、技能者への鉄筋加工、組立ての指示ができる。各職方との段取りの調整ができる	作業所の品質精度・工程・安全・工事管理を行い、技能、知識を第三者に正しく説明、指導ができる	
生産レベルの目安(作業の精度・早さ)		上司の指示を受け、手順を確認しながら作業を行うことができる	鉄筋加工帳(絵符)に基づき、正確な鉄筋加工、組立てを、一般的な早さ・精度で行うことができる	鉄筋加工や組立て精度が平均的な技能者より格段に早く手直しもほとんどない作業ができる	作業そのものより、作業指示・各種管理の総括を的確に行える	
専門知識・基本技能	道具の知識・管理	機械・工具の種類	鉄筋使用機械・工具一式の使用法と手入れを習得している	機械・工具の使い方と手入れの仕方を技能者に正しく指導ができる	安全な作業に向けて、各技能者に機械・工具の手入れ等の管理の指示ができる	
	材料知識	鉄筋の種類と記号	鉄筋コンクリート用棒鋼の呼び名を理解している 製造企業(メーカー)別 鉄筋の色分けと圧延マークを知っている 異形棒鋼とねじ鉄筋の区別がわかる	担当作業所の使用するメーカーと強度を知っている		常にJASS-5の改訂に配慮することができる
		継手及び定着長さ	継手と定着長さを理解している 基本的な継手の種類や方法を理解している	継手と定着長について理解して指導ができる	継手と定着長を理解して、作業結果の検査ができる	常にJASS-5の改訂に配慮することができる
		かぶり厚さ	指示を受けて、かぶり厚さを確保する適切なスペーサーの使い方を理解している スペーサーの種類がわかる	各部位の鉄筋の設計かぶり厚さ及び最小かぶり厚さの規定の知識があり、指導ができる	各部位のかぶり厚さの規定を理解して必要なかぶり厚さを確保できているか検査ができる	
		鉄筋間隔	指示を受けて、鉄筋の間隔・あきを確保する適切なスペーサーの使い方を理解している	鉄筋の間隔・あきの最小寸法を理解し、必要なあき寸法を確保しており、指導ができる	鉄筋の間隔・あきの寸法を理解して、必要なあき寸法を確保できているか検査ができる	常にJASS-5の改訂に配慮することができる
	組立施工図鉄筋加工帳(絵符)の理解・作成	組立施工	配筋の部位がわかる(基礎・柱・梁・壁・床(スラブ)) 指導のもと配筋・結束ができる	指示を受けて、簡単な施工図の作成ができる	構造図・躯体図に基づき、鉄筋施工図の作成ができる	躯体図と鉄筋施工図の整合性を確認し、修正等の指示ができる
		鉄筋加工	指導のもと鉄筋加工帳(絵符)を見て加工ができる 鉄筋加工帳(絵符)を見て加工する機械の判断ができる	鉄筋加工帳(絵符)に基づき作業が進められる 鉄筋加工帳(絵符)を見て加工ができる	鉄筋施工図に基づき、鉄筋加工帳(絵符)の作成ができる 鉄筋加工帳(絵符)に基づき、効率的な作業の進め方を考慮した作業指示ができる	鉄筋加工帳(絵符)と鉄筋施工図との整合性を確認し、修正等の指示ができる 鉄筋施工図に基づき、配筋の重要ポイント等を元請と協議して鉄筋加工帳(絵符)の作成に反映ができる
	専門技能	鉄筋加工	指示と指導に基づいて、曲げ加工作業等の手元作業ができる 曲げ機、切断機の使用法を理解している	鉄筋加工帳(絵符)に基づいて、曲げ加工を行い工場長の確認を受けている 作業者の加工に不具合があれば、自分で見本を加工して見せて指導ができる	作業者が切断や曲げ加工等をした鉄筋材料が当該現場の仕様に合致しているかどうか確認ができる 搬入や積重ね計画を含む小運搬等を考慮した加工を行って小ロット単位で結束して準備ができる	作業者が切断や曲げ加工等をした鉄筋材料に現場仕様と不具合があれば指導し再発防止を図ることができる 搬入や小運搬等を考慮した加工を作業者に指示し、作業結果の確認ができる 鉄筋加工の材料管理ができる
		鉄筋組立	指示に従って鉄筋組立作業ができる 先輩等の指導を受けながら、組立作業手順を学んでいる 先輩等の指導のもと準備作業ができる	鉄筋施工図を見て組立手順に基づいて、効率良く配筋や組立ができる 組立作業終了後に職長の検査を受けている	事前の質疑応答ができており、効率良く配筋や組立ができる 組立作業終了後に、仕様書に基づき検査ができる 作業終了後の立会い検査では、詳細説明を求められた場合には分かりやすく説明ができる	仕様書に則り、鉄筋組立作業の品質管理ができる
		資材運搬	指示に従って荷受作業ができる 使用する工具・資材の準備作業ができる(端太角、玉掛けワイヤー、介錯ロープ)	指示に従って荷受け段取りを行って後輩に作業指示ができる 指示に従い鉄筋加工帳(絵符)を基に入荷材の確認が 資材置場の安全確保の確認ができる	現場状況を考慮した適切な計画をして、材料運搬の作業指示ができる	
配筋検査				自主検査をさせ、是正ができる 部位毎配筋チェックリストの作成ができる(基礎・柱・梁・壁・床(スラブ))	自主検査を行い指示・指導ができる	
資格※	職業能力開発促進法	○ 3級鉄筋施工技能士	○ 2級鉄筋施工技能士 ○ 2級鉄筋施工図技能士	◎ 1級鉄筋施工技能士 ◎ 1級鉄筋施工図技能士	※ 職業訓練指導員	
	労働安全衛生法	◎ 安全衛生教育(雇入れ時) ◎ 玉掛け特別教育(1t未満) ◎ 高所作業車運転特別教育(10m未満) ◎ 足場の組立て等作業従事者特別教育 ◎ フォークリフト運転特別教育(1t未満) ◎ アーク溶接特別教育 ◎ 揚貨装置の運転の業務にかかる特別教育 ◎ 建設用リフト特別教育 ◎ 移動式クレーン特別教育(1t未満) ◎ クレーン特別教育(5t未満) ◎ デリック特別教育(5t未満) ◎ 酸素欠乏作業特別教育	◎ 職長・安全衛生責任者教育 ◎ 玉掛け技能講習(1t以上) ◎ 高所作業車運転技能講習(10m以上) ◎ 足場の組立て等作業主任者技能講習 ◎ フォークリフト運転技能講習(1t以上) ◎ ガス溶接技能講習 ◎ 床上操作式クレーン運転技能講習(5t以上) ◎ 小型移動式クレーン技能講習(1t以上) ◎ 第1種酸素欠乏危険作業主任者	◎ 職長・安全衛生責任者教育(再) ◎ 職長・安全衛生責任者教育(再)	◎ 職長・安全衛生責任者教育(再) ※ RST講座・新CFT講座	
	建設業法		← ○2級建築施工管理技術士(躯体) ← ※2級建築施工管理技術士(建築・仕上げ) ← (主任技術者) →	← ※1級建築施工管理技術士 →	(監理技術者) ◎ 登録鉄筋基幹技能者	
	建築士法 その他	※ 普通自動車免許		← ※建築士(1・2級) →		

※凡例 ◎:当該業務に従事する上で必須の資格 ○:技能レベルを判断する資格 ※:ステップアップしていく上で取得が望ましい資格